

山口県佐波郡奈美周辺のペグマタイト鉱床

小松 壘* 高島 清** 土井 啓司***

本文は昭和30年2月下旬、核原料物質調査の一環として行つた概査報告を要約したものである。

地域は三群変成岩類およびこれを貫ぬく花崗岩類・石英斑岩・玢岩からなる。

鉱床は花崗岩類中に胚胎する塊状、レンズ状、芋状および脈状のペグマタイト鉱床で、その鉱物組合せから内部分帯が可能である(中村鉱床群・赤山鉱床・藪尻鉱床)。

その他、本文中ではペグマタイト以外の鉱床として、いずれも花崗岩中に認められる含螢石石英脈、含タンゲストン石英脈、含銅石英脈および磁鉄鉱鉱体の露頭のいくつかについても述べている。

放射能異常としては、ペグマタイト鉱床の一部に認められるが、それらは雲母量におよむね比例しているようである。放射性鉱物としては、藪尻鉱床の一部において肉眼的にサマルスキー石・コロンブ石・ゼノダイムおよびモナズ石等の良晶を得ているが、それらの含有率は全体としてきわめて低い。しかし、放射能異常を示す地質構造的な位置が、一般的に Roof Pendant としての三群変成岩類(この場合は雲母片岩)を上位に有するペグマタイトである傾向を指摘している。

(昭和30年2月調査)

* 技術部
** 鉱床部
*** 元所員